

臨床研修医募集のご案内

Resident Recruitment

人間を救うのは、人間だ。

Our world. Your move



日本赤十字社

沖縄赤十字病院

理念 赤十字の博愛の心が伝わる病院をめざして

【基本方針】

1. 私たちは患者さんに益することのみに医療技術を提供します。
2. 私たちは信頼される医療が行えるように日々研鑽し、快適な療養環境を創ります。
3. 私たちは地域と連携を密にし、県民の健康増進に貢献できる医療活動を追求します。

【概要】

昭和27年に「厚生協会診療所」として開設され、昭和34年財団法人沖縄赤十字社設立により沖縄赤十字病院に改称。昭和47年の沖縄県日本復帰に伴い日本赤十字社へ組織移行、「沖縄赤十字病院」として再出発。

現在、302床の総合病院として、『①急性期医療②二次医療救急医療③地域周産期母子医療センター④近隣離島や近海の洋上救急およびヘリ添乗による救急医療⑤大規模災害被災者受入病院』を柱に、赤十字の特色である災害救護の為の医療救護班5個班を養成し、疾病の予防から治療並びに災害救護を含めて、大きく地域の医療の一端を担っている。

医師になる皆さんへ

1982年5月、医師としての研修を開始しました。わからないことだらけ、できないことだらけでした。医師として基本的なことを習得するために必死な毎日でした。休みもほとんどなく、肉体的にはきついこともありましたが、日々充実していました。私の昔話です。その時に教えてもらった患者さんの診かた、治療に繋げる一連の考え方は今でも変わっていません。

さて、当院是那覇市の中心部にあります。病院の窓からは2月下旬になるとピンク色の緋寒桜が咲き揃う与儀公園、公園の木々の向こうには新都心の高層マンションが見えます。ちなみに急患搬送のドクターヘリは、この公園に降り、そこから救急車で当院に搬送となります。当院は2010年にこの地に新築移転して来ました。

当院は地域医療支援病院、地域周産期母子センター、そして那覇市唯一の地域災害拠点病院です。ICU・HCU・NICUを有し、急性期病院としての役割を担っています。また日本赤十字社の使命である災害救護、国際救援活動、さらに洋上救急、離島からの急患搬送ヘリコプター添乗事業にも参加しています。東日本大震災や熊本地震の際には、救護班を派遣し、多くの職員が救護活動に従事しました。それから病院の質向上にも取り組み、日本医療機能評価機構の一般病院2<3rdG:Ver.1.0>の認定病院となっています。臨床研修基幹病院ですが、琉球大学医学部附属病院を中心に複数の病院で構成する「RyuMIC」という研修プログラムにも加わっています。

今の時代、一昔前とは違います。「よく学び、よく遊べ」ということわざもあります。余暇も楽しむことも大事です。青い空、そしてちょっと足を延ばせば、青い海と白い砂浜。充実した研修医生活がここにあります。ぜひ沖縄赤十字病院へめんそーれー。

院長 大嶺 靖

Message

自然を楽しみながら、充実した研修医生活

当院は、沖縄観光では定番的那覇市の国際通りや店先に色鮮やかな鮮魚が並ぶ公設市場に程近い場所にあります。新築移転して10年目を迎えます。スタッフを年々増員してきましたが、病院機能向上に向けて、まだまだ人材が必要な状況です。2019年には日本医療機能評価機構の一般病院2<3rdG:Ver.2.0>の認定を受けました。地域医療支援病院でもあり、地域住民に適切な医療を提供する責任があります。質の高い医療を提供すべく、全職員が日々研鑽を積んでいます。医療内容においては地域の皆様に満足してもらっているものと自負しています。日本赤十字社の使命である災害救護、国際救援活動、さらに洋上救急、離島からの急患搬送ヘリコプター添乗事業にも参加しています。

臨床研修に関しては、研修医一人当たりの症例が多く、指導をしっかりと受けることができる体制にしています。琉球大学医学部附属病院を中心に複数の病院で構成する「RyuMIC」という研修プログラムにも加わっており、そこからの研修医も受け入れています。また他の赤十字病院や複数の施設でも研修ができるようになっています。もちろん沖縄ならではの離島診療所での研修も可能です。

一方、研修一辺倒ではなく、余暇も十分楽しめます。那覇市からちょっと足を伸ばせば、ゆったりと時間が流れる南国の島を体感できます。

当地ならではの自然を楽しみながら、充実した研修医生活を送りませんか。

臨床研修管理委員会一同

研修プログラムについて

RyuMIC 沖縄赤十字病院初期臨床研修プログラム

目的

このプログラムにおいては、社会に貢献する医師となる為に「一次医療から三次医療まで、医師としての必要な基本的臨床能力を身につけ、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

教育に通じた熱意のある指導医のもと、日常診療でよく遭遇する疾患についての基本的臨床能力（知識、技能、態度）の修得とともに、医師としての人格を涵養し、時代の要請や社会のニーズに応えられる医師の養成を目指す。また、科学的根拠に基づいた医療を学びながら、後期臨床研修（専門研修）への登竜門となる研修を行う。

特徴

本プログラムでは、琉球大学医学部附属病院（三次医療機関）と地域の中核を担う臨床研修病院（二次医療機関）及び県立精神科病院（精神科）と安謝福祉複合施設と緊密な連携の下、全ての研修医が一次医療機関から三次医療機関における医療を研修できることが特徴である。

- ▶プライマリ・ケアや救急疾患への対応など、様々な基本診療能力の効率的かつ総合的な臨床研修。
- ▶公平かつ一貫した質の高い臨床研修。
- ▶研修医各人の希望に添うローテーションプログラム（コース）選択が可能。
- ▶希望の診療科ローテーションが可能な「選択」期間の設置により、個々に応じたプログラムの組み立てが可能。
- ▶三次医療機関での研修が可能。
- ▶県主催広域災害救護訓練への派遣（年2回）、院内の災害救護訓練。
- ▶日本赤十字社沖縄支部で実施している救急法・蘇生法・水上安全法等の講習会に参加が可能。
- ▶第11管区海上保安本部との協力で洋上救急やヘリ添乗による離島の救急医療が体験できる。
- ▶県立精神科病院での精神科修練及び安謝福祉複合施設での老人介護等の研修ができる。
- ▶多数の協力病院(施設)から選択のうえ地域医療や選択科の研修ができる。

【地域医療】

日赤安謝福祉複合施設、沖縄県赤十字血液センター、首里城下町クリニック、仲本内科、曙クリニック、又吉内科クリニック、かじまやクリニック、ファミリークリニックきたなかぐすく、はいさいクリニック、いらはクリニック、座間味診療所、伊是名診療所、与那国診療所、江別市立病院(北海道)

【内科】

今津赤十字病院、鹿児島赤十字病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

【救急】

熊本赤十字病院、前橋赤十字病院、那覇市立病院

研修方式

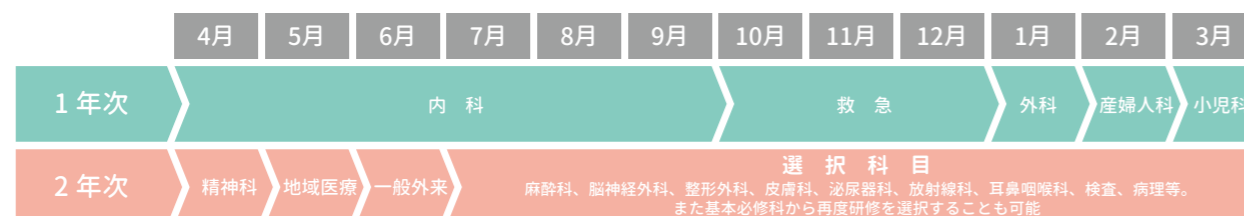
総合診療方式に基づき2年間に基本研修科目と必修科目及び選択科目をローテーションする。

【基本必修科目】 内科（消化器、循環器、呼吸器、血液）、救急、外科、産婦人科、小児科、精神科、一般外来、地域医療

【選択科目】 脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、検査、病理等

- ▶研修期間は原則として基本研修科目は内科24週以上、救急部門12週以上、外科4週以上、産婦人科4週以上、小児科4週以上、精神科4週以上、一般外来4週以上（一般外来は内科研修中に並行して行う）地域医療4週以上とし、残りは選択科を研修する。ただし、この期間に基本必修科を再度研修することも可能である。
- ▶到達目標に関する研修の充実を図り、確実なものにするためには、「基本必修科目」で選択しなかった診療科については、「選択科目」の研修が必要となる。
- ▶救急医療については、研修期間中の当該科の時間内の救急患者の治療を通じて、さらに時間外に指導医と当直し研修する。
- ▶ローテーションの順番は、全ての研修医がこの順番で回るわけではなく、研修医が各科に万遍なく配置されるように決める。
- ▶カリキュラムの修正は、年度の区切りなどで各研修医の適性や修得度を勘案し、希望を再確認した上で研修する科や研修期間を変更する。

研修スケジュール例



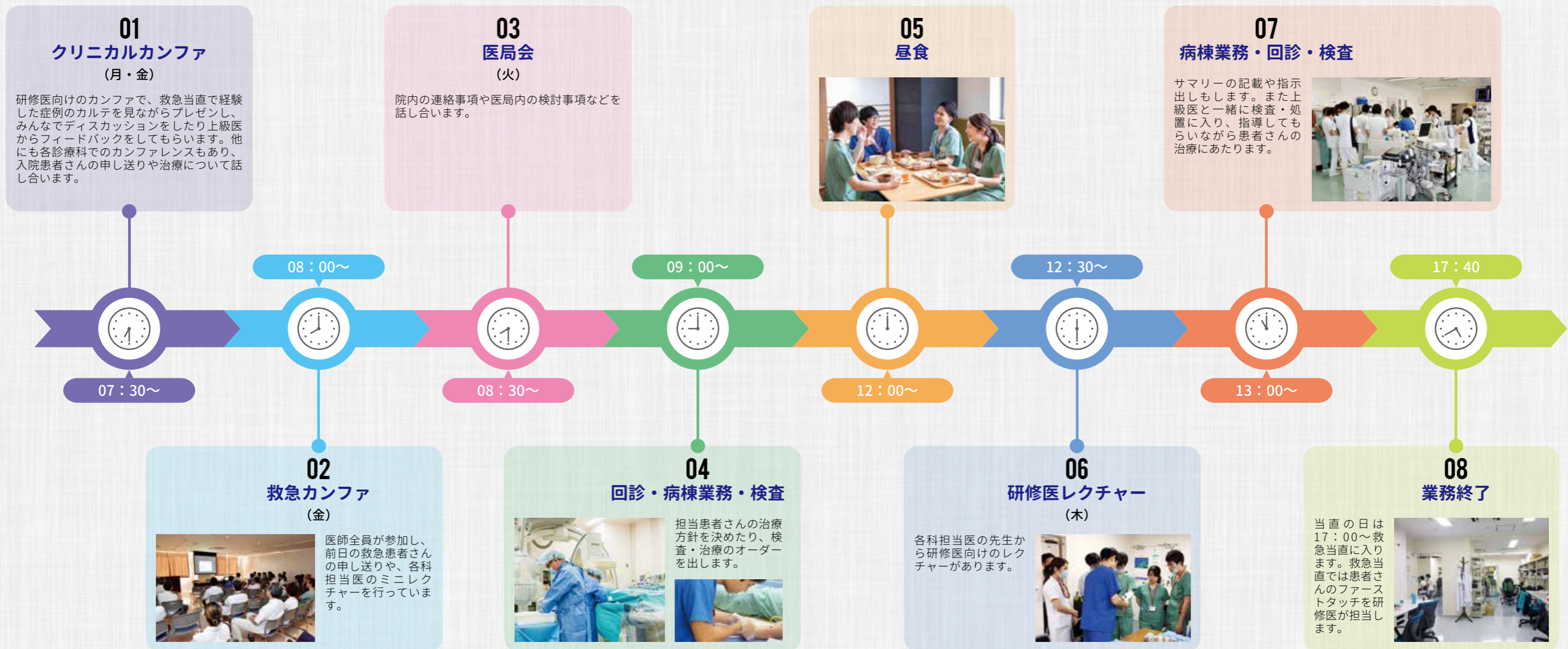
研修医+α昼の勉強会 スケジュール&テーマ

(平成30年度)

日付	担当科	担当者	テーマ
	産婦人科	上里 忠和	妊娠初期について
4月19日	内科循環器	新城 治	心電図
4月26日	内科消化器	大城 勝	消化管出血
5月10日	外科	仲里 秀次	縫合
5月17日	整形外科	森山 朝裕	手関節骨折後の母指伸筋腱断裂
5月24日	泌尿器科	當山 裕一	泌尿器科癌について
5月31日	内科呼吸器	内原 照仁	COPD（急性増悪）
6月7日	麻酔科	差波ゆい子	挿管手技について
6月13日	内科循環器	東風平 勉	ACS
6月21日	内科血液内科	中里 哲郎	リンパ節腫大
6月28日	整形外科	鷺崎 郁之	痛風
7月5日	救急	佐々木秀章	海洋生物
7月10日	外科	川上 雅代	結紮・縫合
7月18日	内科消化器	外間 雪野	急性膵炎の診断と治療
7月27日	内科呼吸器	那覇 唯	肺結核
8月3日	内科血液内科	喜納かおり	血算の見方
8月9日	産婦人科	稲嶺 盛彦	女性の腹痛について
8月16日	整形外科	金城 聡	整形外傷 等
9月6日	脳神経外科	饒波 正博	NIHSSのとり方
9月13日	歯科口腔外科	河野 俊広	歯科感染症
9月20日	内科消化器	古賀絵莉香	栄養療法（肝硬変）
9月27日	救急	佐々木秀章	骨髄路
10月4日	内科循環器	新里 讓	ERでの心不全
10月18日	神経内科	嘉手川 淳	認知症とてんかん
10月25日	放射線科	宜保 昌樹	肝腫瘍の画像診断
11月2日	産婦人科	大城 美哉	臍帯血バンク
11月8日	内科消化器	田中 照久	寄生虫いろいろ
11月14日	内科呼吸器	當銘 玲央	酸素療法
11月30日	整形外科	伊佐 智博	上肢末梢神経障害
12月6日	内科循環器	砂川 長彦	無症候性心筋虚血
12月21日	耳鼻咽喉科	上原 健	耳下腺疾患
1月10日	小児科	降旗 邦生	風疹
1月17日	救急	志村 福子	痛みの臨床
2月7日	外科	豊見山 健	急性胆のう炎の治療
2月14日	麻酔科	淵辺 誠	超音波ガイド下CV-A-Line確保
2月21日	歯科口腔外科	坂元 結	経口摂取について
2月27日	内科循環器	浅田 宏史	心臓リハビリテーション
3月7日	泌尿器科	外間 実裕	泌尿器科救急疾患①
3月14日	眼科	薊 三千雄	眼科一般

研修医の1日

各科をローテーションしながら基本的な知識や手技等を学びます。



サークルの紹介

医師・看護師・メディカル・事務など職種間の交流もでき、毎年多くの職員が参加しています。

毎年5月に、九州ブロック赤十字病院職員親善スポーツ大会が行われています。全部で8つの競技に分かれ、今年はテニス・卓球・フットサル・野球の4つの競技に参加してきました！



研修医の声

研修医
1年目

岸本
恵史

Keishi Kishimoto



上級医の先生方がとても優しく、丁寧に指導してくれるため、すごくありがたく感じています。週に2回の研修医カンファレンスでもフィードバックがあり、自分の行動で足りないところなどを把握しながら、各科の先生方をはじめ看護師さんやコメディカルの方も一緒になって指導してくれるので、すごく良い経験となっています。

研修医
1年目

金城
昌彦

Akiniko Kiriyjo



研修が始まって1年が過ぎようとして改めて良かったと思うのは、研修医の人数が多くないため先生方の一人一人への指導が充実していることです。先生方もフレンドリーで、相談しやすい環境にあります。希望があれば、「ヘリコプター添乗」や「洋上救急」などの要請があった場合に、指導医と同乗して現地へ向かい、患者さんを搬送する貴重な経験もできます。

研修医
1年目

儀間
香南子

Kanako Gimna



沖縄赤十字病院は、上級医の先生方はもちろんのこと、多職種の皆さんとの距離が近く、疑問に感じたことを質問できたり、やりたいことをさせてもらえる環境にあります。本当に右も左もわからない状態からのスタートでしたが、不安なことはすぐに相談ができ、できないことを丁寧に指導してもらえる環境にはとても感謝をしています。医師だけでなく、看護師さんやコメディカルの方々から学ぶことも非常に多いです。不器用な私は日々課題の連続ですが、それでも少しずつ前に進んでいるのはこの環境だからだと思います。

研修医
1年目

照屋
旭平

Kohai Teruya



当院の研修の特徴は3つあります。1つ目は環境の自由さです。選択期間は自分たちでプログラムを調整でき、そのまま後期につながります。次に指導医の優しさです。120%のフィードバックが得られます。最後にオンオフがはっきりしていること。那覇の中心地でリフレッシュしやすい立地にあります。この恵まれた環境で充実した研修医生活を一緒に送りたいです。



研修医
1年目

長嶺

圭祐

Keisuke Nagamine

当院は自由度が高く、研修を進めながら自分に足りない部分や、より知識を深めたいことにも柔軟に対応してくれます。また、学会への参加も積極的に行っており、指導医の協力のもと演題発表もたくさん経験できます。当直の組み方も他の研修医と相談しながら自由に決めることができるので仕事とプライベートの時間も十分に確保できます。ぜひ一度見学に来てください。

募集要項・見学案内

【応募資格】	医師国家試験合格見込みの者
【募集人員】	本年度採用予定者人数／1年次5名
【研修期間】	2年間
【研修方式】	総合診療方式（スーパーローテート）
【応募手続等】	①応募方法：厚生労働省のマッチング方式により実施 ②募集期間：随時 ③必要書類：履歴書、成績証明書、卒業見込証明書
【身分および処遇】	①身分 常勤嘱託職員 ②給与 1年次／300,000円 2年次／340,000円 ③賞与 1年次／夏60,000円 冬200,000円 2年次／夏200,000円 冬200,000円 ④手当等 住居手当：職員給与要綱に準ずる 通勤手当：職員給与要綱に準ずる 扶養手当：なし 当直手当：当直（17～24時）1年次 8,000円、2年次 10,000円 当直（17～翌9時）1年次 16,000円、2年次 20,000円 日直（休日9時～17時）1年次 8,000円、2年次 10,000円 ⑤休暇 年休：1年次10日、2年次11日 特休：結婚休暇3日以内、忌服3日以内 休日：土日祝、沖縄慰霊の日（6/23）、年末年始（12/29-翌年1/3） ⑥学会出張 年間2回の学会等（全国1回、地方1回） ⑦社会保険 健康保険、厚生年金、厚生年金基金、雇用保険、労災保険 ⑧賠償保険 医師賠償責任保険への加入は個人にて必須加入。 ⑨当直 当直回数は、週1～2回
【お問合せ先】	沖縄赤十字病院 総務課（砂川） TEL：098-835-3134 E-mail：rc-d-resi@okinawa-med.jrc.or.jp

医学図書室紹介

図書室は、24時間利用可能です。図書室専任の司書が文献の取り寄せや文献検索の相談に応じ、研修医をサポートします。

所蔵資料

- 図書：510冊
- 現行受入雑誌 80誌（和雑誌57誌 洋雑誌 23誌）
- 電子ジャーナル 15誌（洋雑誌）

文献検索・データベース

- ・医中誌Web
- ・メディカルオンライン
- ・Pub Med
- ・Ovid MEDLINE
- ・Medline with Full Text
- ・CINAHL with Full Text

EBM 情報検索・診療支援ツール

- ・DynaMed
- ・The Cochrane Library
- ・Up To Date



病院見学についてのご案内

当院ホームページの「病院見学予約」にて必要事項を入力ください。おってご連絡いたします。また、遠方よりお越しの方へは一部宿泊費の補助もあります。お気軽にお問合せください。



←病院見学フォームはコチラから



各科からのメッセージ

Message

研修医の皆さんへ伝えたいこと

呼吸器内科

副院長兼呼吸器内科部長
赤嶺 盛和

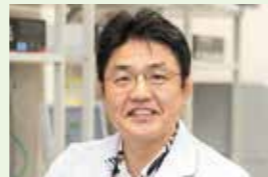


当院は呼吸器専門医2名（内1名は指導医）体制、呼吸器外科の協力も得ながら診療を行っております。肺癌の診断（EBUS-ES 法を用いたの気管支鏡検査、局所麻酔下胸腔鏡検査、CTガイド下肺生検）、治療（放射線治療、抗癌剤治療、緩和医療）、間質性肺炎、喘息、COPD、細菌性肺炎などの診断と治療を行なっています。

熱意ある研修医の先生を待っています。

血液内科

血液内科部長
友寄 毅昭



当院血液内科では、白血病やリンパ腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの非腫瘍性疾患を幅広く診療しています。また、無菌室と末梢血幹細胞採取・保存のための設備も整っており、自家末梢血幹細胞移植も行っています。沖縄県内で血液疾患の診療を行っている病院は少ないですが、当院では血液疾患の研修もできます。

消化器内科

第一部長
外間 雪野



当院は、地域医療に密着した市中病院としての役割を担っています。また消化器内視鏡学会の認定を受けた指導施設で、専門医取得までの一連の研修が可能となり緊急内視鏡を含めた急性期から慢性に至るまであらゆる消化器疾患に対応できる医師の育成を目指しています。なお当科の部長は2人とも子育てをしながらフルタイムで働く医師でもあります。家庭と仕事を両立させて充実した研修を目指したい方、大歓迎です！

各科の垣根が無く、自由に研修できる病院だと思います。沖縄赤十字病院で研修してみませんか？一緒に仕事できる日を心待ちにしております。

救急

第一救急部長
佐々木 秀章



初期研修、不安の1つは点滴などの手技ではないでしょうか？当院では研修医枠が少ないため基本的に搬入される全ての患者さんを1人で担当することになり、否応なく基本的な手技が身につきます。その後患者さんの病状把握・診断・治療と進みますが、その間にも重症度判断＋トリアージの発想が求められます。最初は戸惑うでしょうがここで指導医を呼ぶべきか、この判断が重要です。症例を通して一緒に学んでいきましょう。

循環器内科

循環器内科第一部長
砂川 長彦



当院は県都那覇市の中心に位置する急性期病院で様々な病態の患者さんが受診します。循環器内科も突然の心停止（脳低温療法併用による完全社会復帰例）から慢性心不全（渡航心移植例）まで日々さまざまな病態の患者さんに全力で対応しています。みなさんが将来どの科を専攻しようとも、その基礎はバランスのとれた内科的思考だと思います。内科スタッフみんなてみなさんの指導にあたります。当院で研修してみませんか。

外科

副院長兼第一外科部長
宮城 淳



当院では消化器癌や肺癌などの悪性疾患も腹腔鏡や胸腔鏡手術の適応とし、積極的にを行っています。助手も執刀医と同じ術野を見ることになり、本で見たり、実習で学んだものとはちょっと感じの違う実際の解剖の理解が深まります。後に外科以外の診療科を選択した場合にも、頭に残ったその映像は医療を実践していく上で役立つものと考えます。乳癌やその他一般外科の手術も多く、研修医が執刀する機会も少なくありません。また各種学会の修練施設や認定施設となっており外科専門医やSubspecialty専門医の取得も可能です。侵襲的な処置や治療を行うことで、医師として自信がつかます。将来につながるいい研修が受けられるものと考えます。

脳神経外科

脳神経外科部長
饒波 正博



当院の脳神経外科は、脳卒中に対する血管内治療の症例数では県下一を誇ります。脳神経外科領域で遭遇する機会が一番高い脳卒中の症例を初期研修時代に経験しておくことは、今後どの道に進むにしても役に立つと考えます。加えて、神経内科専門医も私たちのチーム（脳神経チーム）におりますので、患者さんの神経所見を手早く、もれなく診るコツを習得できます。私たちの初期研修プログラムは一生使えるスキルをここで習得していただくことに主眼を置いています。

麻酔科

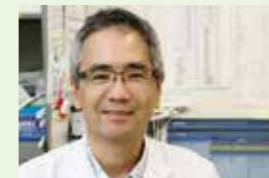
部長
瀧辺 誠



沖縄赤十字病院では手術麻酔以外に集中治療医学にも関わることが可能で、全身管理のエキスパートとして全ての医者が身につけるべき技術を習得するのに最適な科の一つです。当院の麻酔科は琉球大学医学部麻酔科と連携し、院内のみならず、県内・県外の病院への研修も可能となっております。ご希望の方はご相談下さい。

整形外科

整形外科第一部長
大湾 一郎



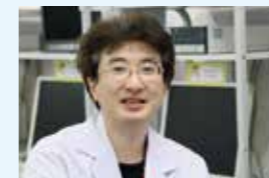
社会の高齢化に伴い、運動器の治療を行う整形外科の必要性はますます増えてきています。

当院では救急病院ならではの運動器の外傷から変性疾患まで幅広く経験でき、さらに小児整形や股関節外科、肩関節外科など他院では経験することの少ない症例も経験できます。

ともにより良い治療を目指し、チームとして協力しながら仕事出来る事を楽しみにしています。

産婦人科

産婦人科第一部長
上里 忠和



産婦人科は常勤5名で女性医師も2名います。当院は地域周産期医療センターに指定され、リスクの高い妊婦さんをよく受け入れています。子宮筋腫、卵巣嚢腫や性器脱の手術も多く行っており、症例によって腔鏡手術も取り入れています。

悪性腫瘍は手術・化学療法・放射線治療を行っています。対応困難な症例については、高次医療機関にも御紹介しています。

小児科

小児科第一部長
翁長 晃



当院の小児科は、地域周産期母子医療センターとしての認可も受けており、新生児・未熟児医療を中心に診療にあたっています。将来を担う子供たちを大切に育てたいと思い、「後遺症なき生存」を最大目標に頑張っています。周産期ネットワークをフルに活用し、他の医療機関との病診連携、病病連携を密に行い、よりよい医療を目指しています。

一般小児科は午前中心に診療し、午後は主に循環器、神経、アレルギーなどの診療や、乳児健診・未熟児健診・予防接種外来などを行っています。小児科専門医の資格取得も可能です。

泌尿器科

泌尿器科第一部長
外間 実裕
泌尿器科第二部長
富山 裕一



現在、一般泌尿器科外来を中心に、男性機能外来、男性更年期障害外来などの特殊外来も開設しています。また前立腺肥大症などの良性疾患や膀胱癌の内視鏡的手術も行っています。血液透析も担当し、血漿交換などの血液浄化も行い、シャント作製のほかカフ型カテーテルの挿入も積極的に行っています。

皮膚科

部長
上原 絵里子



那覇市を中心に病院が位置するため、近隣の開業医から専門的な検査治療依頼の症例も多く、またcommon diseaseの症例も多いので、様々な皮膚疾患の診療に日々あたっています。目の前の皮膚症状から病因を推察したり、組織検査から皮膚症状を考えたり（ミクロからマクロへ）真菌検査など自分で行える検査も駆使しながら診る楽しさがあると思います。

放射線科

部長
宜保 昌樹



放射線科では、CT（64列1台、16列1台）、MRI（1.5T1台）、ライナック1台を所有し、画像診断と放射線治療を行っています。複雑化した画像診断においてまず理解する必要があるのは一般的な検査の適応、検査法の選択であり、最適化された検査を計画すること。複雑な病態において症例に応じた放射線診断を行うことができるようになることが大事。癌治療において低侵襲性の放射線治療は治療技術の進歩と共に適応は拡大し、治療患者数も増加の一途をたどっている。集学的治療が必要な癌治療において増大する放射線治療の役割を理解してほしい。

各階案内



診療科目

内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、循環器内科、内分泌内科、代謝内科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、脳神経内科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、精神科

診療実績(平成30年実績)

病床数	302床
外来のべ患者数(年間)	126,732人
一日平均外来患者数	292人
一日平均入院患者数	257人
平均在院日数	13.1人
救急患者数	8,826件
救急車搬送件数	2,324件

主な機能

救急告示病院
地域災害拠点病院
地域医療支援病院
周産期母子医療センター
基幹型臨床研修指定病院
日本医療機能評価機能認定機構

学会認定施設

50音順

学会名	指定(認定)内容	学会名	指定(認定)内容
日本がん治療認定医機構	認定研修施設	日本心血管インターベンション治療学会	研修関連施設
日本救急医学会	専門医指定施設	日本整形外科学会	認定医制度研修施設
日本外科学会	外科専門医制度修練施設	日本大腸肛門病学会	認定施設
日本口腔外科学会	准研修施設	日本内科学会	認定医制度教育関連病院
日本呼吸器外科学会	基幹施設の関連施設	日本乳癌学会	認定施設
日本呼吸器学会	認定施設	日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会	エキスパンダー実施施設
日本産科婦人科学会	卒後研修指導施設	日本脳神経外科学会	専門医認定指定訓練場所
日本循環器学会	認定循環器専門医研修施設	日本泌尿器科学会	専門医教育施設
日本消化器外科学会	専門医修練施設	日本皮膚科学会	認定専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会	指導施設	日本病理学会	研修登録施設
日本消化器病学会	関連施設	日本麻酔科学会	麻酔科認定病院
日本静脈経腸栄養学会	N S T 稼動認定施設	日本臨床細胞学会	認定施設

各種学会認定資格取得状況一覧

(2019年4月1日現在)

	内科																外科	救急部門	小児科	産婦人科	脳神経外科	神経内科	整形外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	放射線科	麻酔科	歯科口腔外科	医療社会事業部(健診センター)	研修医	合計
	呼吸器科	消化器科	循環器科	血液内科																													
医師数	17	9	2	6	5	2	1	5	2	1	1	2	2	3	2	2	8	70															
指導医数	4	3	1	1	1	1	0	2	0	0	1	0	1	1	0		16																

※指導医数は、指導医養成講習会修了者数となっています。





日本赤十字社

沖縄赤十字病院

〒902-8588 沖縄県那覇市与儀1丁目3番1号

TEL 098-853-3134 FAX 098-853-7811

<http://www.okinawa-med.jrc.or.jp/>

